

## 平成 27 年度活動報告

### 課題研究「学士課程教育における共通教育の質保証」(平成 25~27 年度)

○研究代表者：高橋哲也<sup>2\*</sup> (大阪府立大学)

○課題研究委員会メンバー：

松下佳代<sup>1\*</sup> (京都大学)、森朋子<sup>1</sup> (関西大学)、杉原真晃<sup>1</sup> (山形大学)、宇野勝博<sup>2</sup> (大阪大学)、深堀聰子<sup>2</sup> (国立教育政策研究所)、山田礼子<sup>3\*</sup> (同志社大学)、森利枝<sup>3</sup> (大学評価・学位授与機構)、白川優治<sup>3</sup> (千葉大学)、鳥居朋子<sup>4\*</sup> (立命館大学)、岡田有司<sup>4</sup> (高千穂大学)

研究協力者：小野和宏<sup>1</sup> (新潟大学)、斎藤有吾<sup>1</sup> (京都大学)、山田嘉徳<sup>1</sup> (関西大学)、林透<sup>1,4</sup> (山口大学)、亀倉正彦<sup>1,4</sup> (名古屋商科大学)、水町龍一<sup>2</sup> (湘南工科大学)、相原総一郎<sup>3</sup> (大阪薫英女子短期大学)、川那部隆司<sup>3</sup> (立命館大学)、高野篤子<sup>4</sup> (大正大学)、山田剛史<sup>4</sup> (京都大学)

(氏名の右上の数字は所属サブテーマ、\*はサブテーマ統括者を示す。サブテーマは 4 テーマ)

サブテーマ 1：共通教育における学習成果の直接評価

サブテーマ 2：数理科学分野における共通教育の質保証

サブテーマ 3：共通教育における学習成果の間接評価

サブテーマ 4：共通教育における質保証のためのマネジメント

○研究期間：平成 25 年度～27 年度

(全体の活動)

○大会ラウンドテーブル「学士課程教育における共通教育の質保証—評価データの併用と質保証のマネジメント—」(2015/6/6) (サブテーマ 1, 3, 4 から報告)

企画者：山田礼子 (同志社大学社会学部)

報告者：山田礼子・森利枝 (大学評価・学位授与機構)・亀倉正彦 (名古屋商科大学)・斎藤有吾 (京都大学大学院教育学研究科、日本学術振興会)・高野 篤子 (大正大学)

司会：高橋哲也 (大阪府立大学高等教育推進機構)

○課題研究シンポジウム「学士課程教育における共通教育の質保証」(2015/11/29) (全サブテーマから報告)

企画者・報告者：高橋哲也 (大阪府立大学)・松下佳代 (京都大学)・山田礼子 (同志社大学)・鳥居 朋子 (立命館大学)

指定討論：小笠原正明

司会：深堀聰子 (国立教育政策研究所)

(サブテーマごとの活動)

・サブテーマ 1「共通教育における学習成果の直接評価」活動報告

【活動】今年度も引き続き、新潟大学歯学部、関西大学、名古屋商科大学、山口大学、山形大学をフィールドとして、ルーブリックやパフォーマンス課題などの直接評価を開発・実施し、そのデータを収集・分析した。また、間接評価のツールとして開発した「CLQ (授業用学習質問紙)」を用いて、科目レベルでの直接評価と間接評価の統合について検討した。

なお、これらのフィールドでのアクションリサーチの成果を報告するために、関西大学教育開発支援センターとの共催で、第 14 回関西大学 FD フォーラム・大学教育学会課題研究「学士課程教育における共通教育の質保証」合同企画イベント「学習成果をどう評価するか?—評価課題とルーブリックの開発—」を開催した (10 月 3 日、関西大学千里山キャンパス、[http://www.las.osakafu-u.ac.jp/~takahasi/kadaiken\\_public/](http://www.las.osakafu-u.ac.jp/~takahasi/kadaiken_public/) に資料掲載)。

【報告】2015 年大会ラウンドテーブルにおいて、名古屋商科大学における評価開発と直接評価・間接評価

の統合について報告した。また、課題研究集会で「共通教育における学習成果の直接評価—成果と課題—」という報告を行った。さらに第22回大学教育研究フォーラムにおいて、「ルーブリックの課題と可能性—組織的な取組に向けて—」というセッションをもち、課題研究集会で残されていた課題について提案を行った(3月18日、京都大学)。その他、『大学教育学会誌』に論文が掲載された。

#### ・サブテーマ2「数理科学分野における共通教育の質保証」活動報告

【活動】本年度はサブテーマ4で実施した全国調査の結果から先進的と思われる大学3校(国立1校、私立2校)の訪問調査の結果を検討した結果、大学としての教育目標の設定とそれを達成するためのカリキュラム作成組織の意識の差、共通教育実施組織の学位プログラムのカリキュラム作成への関与の少なさなどの課題が顕在化し、ヒアリング大学の取組の特徴と我が国の大学教育における数学的リテラシー教育の課題を抽出し、課題研究集会で発表するとともに学会誌の論文としてまとめた。また、サブテーマ3で実施されたJSL2015の直接評価のための数学的リテラシー問題を提供し、その結果の分析も課題研究集会でを行った。

【報告】2015年度課題研究集会シンポジウムにおいて、上記の3大学、国立総合大学として信州大学、私立総合大学として中部大学、私立小規模大学として名古屋文理大学の共通教育としての数学的リテラシー教育の特徴と課題、さらに公立大学の事例として大阪府立大学の文系向けの数学的リテラシー教育の実施のための要件、高校教育との接続について報告した。また、本課題研究の成果として、東北大学高度教養教育・学生支援機構主催、大学教育学会後援のシンポジウム「数理科学教育の新たな展開—文系基礎学・市民的教養としての数理科学—」(2015年10月26日開催)において宇野が報告をおこなった。

#### ・サブテーマ3「共通教育における学習成果の関節評価」活動報告

【活動】2014年度に作成したルーブリック型質問と客観テストである間接評価と学修行動、ジェネリックな能力の習得度に関する自己評価を統合して完成させたJSL2015(大学生学習調査)を、2015年4月から7月にかけて5大学の学生を対象に「大学生学習調査2015年」を実施した。5大学の最終回答数は533件である。間接評価と直接評価を統合した「大学生学習調査2015年」は、A4版7ページにわたるもので、回答と解答の時間は20-30分を標準と設定し、30分を上限とした。

【報告】2015年大会ラウンドテーブル「において、森が客観テストの開発過程とテスト項目についての報告をおこなった。また、課題研究集会で、山田が「共通教育における直接評価と間接評価における相関関係-成果と課題-」という報告を行った。白川、森、山田の3人で2016年度のAssociation for Institutional Researchに“Self-claimed ability vs. tested ability of students: A case study in Japan”という題名で応募し、採択された。2016年5月にニューオーリンズでpaper presentationを行う予定である。同年5月には、台湾教育社会学会からの招聘を受けて、「間接評価と直接評価の統合による学修成果の測定(仮)」というタイトルで森と山田が共同発表を行う予定である。

#### サブテーマ4「共通教育における質保証のためのマネジメント」活動報告

【活動】本年度は、これまでの研究成果を総合的に検討しながら、共通教育の質保証のためのマネジメントのティップス開発に向けて研究を進めた。具体的には、2015年5-6月にエビデンスに基づく教育改善に積極的であると評価される「平成26年度AP事業(「テーマI: アクティブ・ラーニング」と「テーマII: 学修成果の可視化」の複合型)」の採択校(約20校)を対象に、共通教育の質保証のためのマネジメントに関するアンケート調査(自由記述式)を実施した。共通教育の「目標設定」「実施」「評価」「改善」「マネジメント全体」について、工夫した点や困難な点、今後の課題等を尋ねた。これらの自由記述回答を手がかりに、採択校における共通教育の質保証のためのマネジメントにかかわる視点や手法を構造化するとともに、複数機関においてより詳細な聴き取りを行う訪問調査を実施した。あわせて、本課題研究の他のサブテーマの研究成果から見えてきた共通教育のマネジメントにかかわる論点の整理も並行して進めた。以上の研究成果をふまえながら、共通教育における質保証のためのマネジメントの実践知のまとめとも見なせるティップス(暫定版)を開発した。

【報告】2015年大会ラウンドテーブルにて、共通教育の質保証のマネジメントに関して、名古屋商科大学

と大正大学のケーススタディを報告した。また、最終的な研究成果物として、「共通教育における質保証のためのマネジメントのティップス（暫定版）」を2015年課題研究集会シンポジウムにおいて報告した。なお、同ティップスは微修正の後、「共通教育の質保証のためのマネジメントのティップス Ver.1.0」として、現在本学会ウェブサイトにおいて公表されている。